

第3期いわて林業アカデミー 元気な若者の力で岩手を森アゲろ！

1 はじめに

第3期いわて林業アカデミーの研修生は17名となり、うち女性が1名と益々岩手の林業を「森アゲ」するため、安全第一に、元気に、はじめての林業を楽しく学んでいます。

2 昔の人は偉い！刃物実習

最初の実習は鋸、鉋、斧等の手で扱う刃物の使い方です。片刃と両刃の違い、刃の角度と切れ味、安全な使用方法を学びます。



あなたの斧はどの斧？

まっすぐにすること。枝打ちには幹に食い込まない両刃の鉋を使うこと。斧の刃の角度で薪の割り易さが変わること等を体で覚えていきます。

特に鉋は、その大きさと形状に驚きます。どの鉋が切りやすいか丸太輪切り競争で確かめますが、そこでわかることは「とても大変！」だといふことです。チェーンソーであれば数秒間で切断できますが、斧と鉋を使って大木を切り倒していた時代の苦労を実感することができました。



若さがあれば何でも切れる？

3 林業作業者は刃が命！

刃物は切れ味が命です。良い仕事をするためには刃を良く研ぐことが大事です。鋸、鉋、鉋のほかにチェーンソーや刈払機の刃も同じです。林業作業者は刃が命なのです。

アカデミーでは道具の整備、特に目立てを良く行うように指導しています。チェーンソーや刈払機の専門家を講師に招き、その目立てを学びます。良い目立てのポイントは、①刃物を固定すること。②ヤスリを真っすぐあてること。③刃の角度や大きさを揃えること。④良い治具を使うことです。



プロから目立てのポイントを学ぶ

4 安全は装備から！

アカデミーでは、安全装備の装着を徹底しています。特にチェーンソー作業では、①足下

はチェーンソー防護ブーツ、②目は保護メガネ、③頭はバイザー、イヤマフ付きのヘルメット、④手は作業用手袋、⑤上半身は肌を露出しない服装、⑥下肢はチェーンソー防護ズボンの装着を必須としています。



足元から頭までカッコ良く

効率よりも体を守ることを最優先しています。付け加えるならばカッコ良くすることです。安全に対する意識の定着と若者を魅了する見栄えを大切にする欧州の考えを導入したこだわりの安全装備です。

5 ドキドキのチェーンソー作業！

多くの研修生が、アカデミーで、初めてチェーンソーに触れます。今年には女性の研修生もおり、講師陣もやや緊張気味です。さっそく、エンジンを始動します。アカデミー

では50cc級のチェンソーを標準としていますが、女性の研修生は始動に大苦戦。そこで軽い35cc級のチェンソーに替えると難なく始動できました。それでは、実際の丸太切りはどうでしょうか。

講師の心配をよそに「ヴォンヴォン、ヴォーローン」と滑らかなチェンソーさばきで、見事に切断することができました。



チェンソーの操作練習

チェンソー作業は段階的に研修を進めます。単純な輪切りからは始まり、突っ込み切り、上下の合せ輪切り、斜め切りと水平切り合せ切り等を行い、立木を切るための準備を進めます。次に、正しい受け口、追い口、ツルの作成を練習します。特に、受け口は伐倒方向に正しく向いている

かなど、特製の定規などで測り、精度を確認しながら繰り返し練習します。

9月に小岩井農場で研修生による伐木競技会を開催します。11月には住田町で開催予定の目立て競技会に参加します。研修生同士、また、プロの技を見ながら、チェンソー技術の向上に努めます。

6 伐ったら植えて育てる！

アカデミーでは毎年約0.4畝にスギとカラマツの裸苗とコンテナ苗を植栽しています。



傾斜地で植栽

唐鍬とくわを持ち、苗木袋を背負い、適当な間隔で植えていきます。根が地表に出ていたり、踏み固めが甘かったり、植栽間隔が変わったりしたらやり直します。プロは1日200から400本植えるとのことですが、まずは1本1本丁寧に植えていきます。

植えた後は下刈作業です。刈払機の操作、植栽木の判別など、未熟な研修生には大変な作業だと感じます。追い打ちをかけるように猛暑や蜂の恐怖が研修生を脅かします。開講3年目となり、下刈が必要な場所が増え、つる性植物にも悩まされながら、チームワークで暑い夏を乗り切りました。



大変な下刈作業

7 楽しく学ぶオープンキャンパス
7月29日と30日には、アカデミーのオープンキャンパスを開催しました。

研修生はチェンソー操作のほか、フォワーダ、プロセッサ等の高性能林業機械の操作を披露しました。

また、参加者との意見交換会では、受講の動機、研修のわかりやすさ、研修生活のリズム、女性でも林業が

できそうか等の質問があり、活発に意見を交わしました。

参加者アンケートでは、アカデミーで研修を受けてみたいとの回答が10名を超え、次年度以降の手ごたえを感じることができました。



腕前を披露する研修生

8 おわりに

今後は、研修も後半に入り、就業を見据えた、より実践的な研修が増えていきます。秋、冬には、長期のインターンシップを経験し、来年春の就業に向け、心と技術に磨きをかけていきます。

皆さんの期待にそえるよう、精進の日々が続きます。

林業技術センター 研修部

019 (697) 1536